

**【研究の目的、研究内容】****(1) 研究主題**

思考力（深く）・判断力（正しく）・表現力（美しく）を高めていく生徒の育成 ～総合的な学習の時間の探究的な学習を通して～
--

**(2) 研究主題設定の理由**

福部中学校の生徒は、素直で与えられた課題に真面目に取り組む反面、周囲の意見に流されがちで自らの思考を深め、判断・表現していくことがやや弱い傾向にある。また仲のよい友達以外の生徒と協同的に接していくことも苦手としている。生きる力を育む観点では、直面する問題に対して自ら意志を持ち、主体的に解決していく態度を育てる必要がある。そのためには、問題解決を支える力として思考力・判断力・表現力を高めることが重要である。新学習指導要領では、「生きる力」を育むという理念のもと、知識・技能を「習得」「活用」「探究」していく学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成することが重視されている。これらの力を育成するためには、学習プロセスにおける「言語活動の充実」を図ることが重要である。本校でも「言語活動の充実」を念頭に置き、特に言語を媒体として「考える」ことを基軸とした授業を実践し、思考力・判断力・表現力の育成を図ってきた。

昨年度、本校は国立教育政策研究所の教育課程研究指定校事業の「総合的な学習の時間」で研究指定を受け、身近な問題である郷土に関わる題材を取り上げ、「総合的な学習の時間」の探究学習の質を高めることに取り組んだ。そして思考力の育成を研究の柱として、「総合的な学習」の時間と各教科との相乗効果も期待し、確かな学力の定着と向上を目指し研究を進めた。探究的な問題解決をしていく学習プロセスの中で、思考ツールを活用し具体的な思考活動を行うことで、学習場面・生活場面で期待する成果も見られた。しかし、集団での思考力の育成、授業のねらいにより適した思考ツールの開発、他領域との横断的総合的な単元づくりの工夫などいくつかの課題も存在した。本年度も、昨年度の研究の課題を踏まえて、思考力の育成を研究の柱とした取組を継続することで、昨年度の成果がより確かなものになると考える。上記の理由により、研究主題を設定した。

**(3) 福部中学校研究の全体像**

「習得・活用・探究」の学習活動の流れに基づいて、本校の研究構造を整理する。

「習得」の授業では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指している。

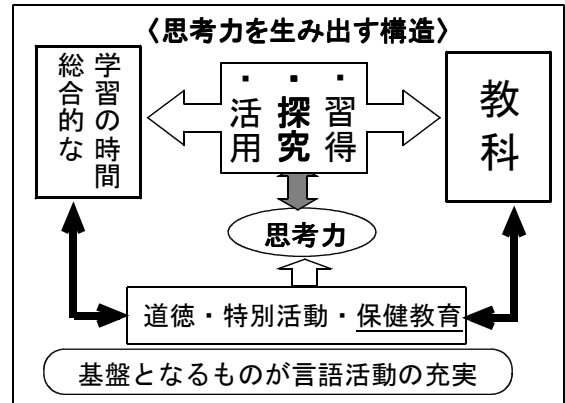
「活用」の授業では、習得した知識・技能を活用することで、それぞれの教科の中で、自分の考えを表現・整理することを目指している。

「探究」の授業では、「習得」「活用」で身に付けた力を基にして、教科の発展学習や「総合的な学習の時間」で、自ら課題を見出し、問題解決をしていくことを目指している。

「総合的な学習の時間」の「探究」に、教科で身に付けた「習得」「活用」の力を生かすだけでなく、「総合的な学習の時間」で身に付けた「探究」の力を教科の「探究」に生かしていくなど、すべての場合の方向性を持たせている。また道徳や特別活動などで身に付ける実践力も有効に関連させていかなければならない。本年度は保健教育との横断的な単元構成を試みている。これらの学習活動の流れを確立することが思考力の育成につながり、確かな学力の定着と向上につながるものと考えている。(図1)

そして、これらの学習の基盤となるものが言語に関する能力であり、そのために「総合的な学習の時間」及び各教科で言語活動を充実する必要がある。本年度の研究は、「総合的な学習の時間」に「探究」の学習過程を重点的に取り組み、探究活動の質を高めていくことである。また教科の学習と「総合的な学習の時間」は「考える」こと、つまり「思考力」という部分で、育てたい力が密接に関連していることから、以下のような方向性（図2）を目指すこととした。

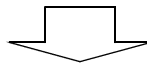
(図1)



(図2)

福部中学校 平成24・25年度研究主題  
「思考力（深く）・判断力（正しく）・表現力（美しく）を高めていく生徒の育成」  
～各教科に位置づけた言語活動を実践し、その内容や指導方法を検証しながら新学習指導要領に対応した取組の推進（総合的な学習の時間の探究的な学習を通して）～

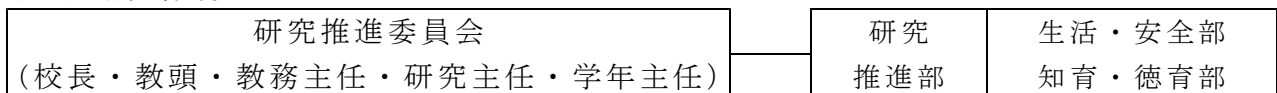
◎教育課程研究指定校事業研究課題（平成24・25年度国立教育政策研究所指定）  
〈総合的な学習の時間〉  
・探究のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ表現）において、思考力を育成すること。  
・整理・分析過程を実現する思考ツール（シンキングツール）の研究開発及び活用をすること。



**【研究で目指すもの】**

「総合的な学習の時間」の探究活動の質を高め、思考力を育成するとともに、教科学習と「総合的な学習の時間」の相互作用を図りながら、各教科で求められる思考力も深めていく。

**(4) 研究体制**



※鳥取県教育委員会東部教育局，鳥取市教育委員会の指導主事の先生方と連携をとり、授業研究会で指導助言をいただいた。

**(5) 1年間の主な取組の経過**

- 5月 授業研究会（2学年「総合的な学習の時間」，研究の方向性の共通理解）  
2学年単元「地域・らっきょう発信学習」→集団での思考力の育成
- 8月 職員研修会（保健教育との融合を含めた「総合的な学習の時間」の単元構成，教科での思考力育成の取組の共通理解）
- ・10月 授業研究会（1学年「総合的な学習の時間」）  
1学年単元「地域・らっきょう探究学習」→集団での思考力の育成
- ・10月 授業研究会（2学年「総合的な学習の時間」）  
2学年単元「地域・らっきょう発信学習」→保健教育との横断的な取組
- ・12月 鳥取市学校保健研究大会（1～3学年「総合的な学習の時間」）  
1学年単元「地域・らっきょう探究学習」→集団での思考力の育成  
2学年単元「地域・らっきょう発信学習」→保健教育との横断的な取組，集団での思考力の育成  
3学年単元「福部の未来を伝えるCMづくり」→集団での思考力の育成

(6) 具体的な研究内容・方法・研究を進める上での工夫した点等

○思考力の育成を研究の柱に

生徒の実態に応じて、「総合的な学習の時間」の育てたい力（評価の観点）の見直しを行い、思考力・判断力・表現力・自己を考える力・コミュニケーション力の5つに定義した（図3および巻末資料①参照）。新学習指導要領の総則には、「総合的な学習の時間」のねらいの一部に次の内容が述べられている。

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

このように「総合的な学習の時間」における学習方法に関する評価の観点では、問題解決能力が求められる。その中で問題解決の過程において「考える」学習活動こそが、新たな価値を創るための核となる活動であるといえる。よって本校が従来、教科の学習で取り組んできた研究実践とも関連していることもあり、学習方法に関する評価の観点の中に「思考力」という言葉を独立させて位置付けた。これは、「総合的な学習の時間」の探究活動の質を高めるために最も必要な力であり、各教科における確かな学力の定着と向上を目指すためにも「思考力」が最も土台になるものと考えからである。なお、研究指定を受けたこともあり、研究の視点を焦点化していくことも考慮に入れている。

(図3)

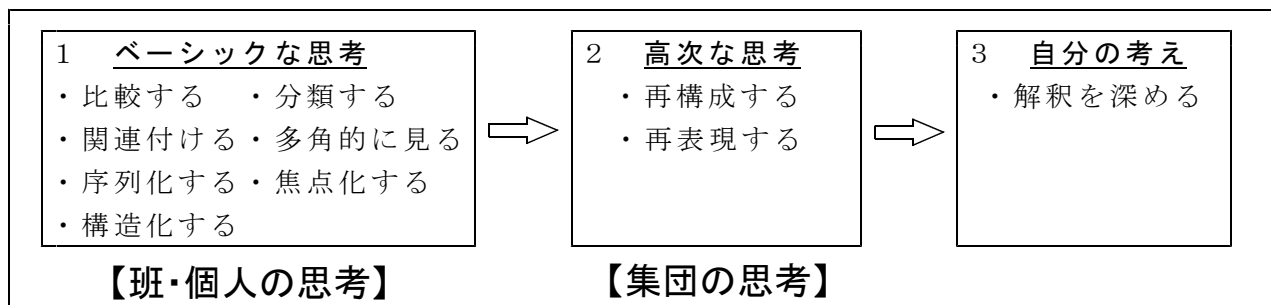
総合的な学習の時間の目標	
①自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質と能力を育成する。	
②人とのふれあいを通して、学び方やものの考え方を身に付け、学んだことを相手に合わせて発信・伝達していく態度を育てる。	
③公（地域社会）に尽くす大切さを理解し、地域への愛着と地域の現在と未来を創造していく意欲を持つとともに、自己の生き方を考えることができるようにする。	
評価の観点（育てたい力）（ ）は上記目標との関連	
学習方法に関すること	
○思考力	今までの知識や技能、習得した情報をもとに、比較、分類、関連づけ、多角的に見る、構造化、序列化、再表現などを通して理解や解釈を深め、自らの思考で説明をしていく力（①）
○判断力	自分で目標を設定し、その目標に対して様々な情報を対応付けたりすることで、適切な情報を正しく判断して選択する力（①）
○表現力	学んだことを、目的を持って相手に合わせ、美しく表現して伝えることができる力（②）
自分自身に関すること	
○自己を考える力	探究課題を今の自分の生活と関連付けて考えていく力（①③） 学習内容や体験したことを自分の将来や生き方と関連付けて考えていく力（③）
他者や社会とのかかわり	
○コミュニケーション力	公（地域社会）に尽くす大切さを理解し、人とコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築いていく力（②③）

○思考力の分析（ベーシックな思考から高次な思考へ）

探究のプロセス（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ表現）において、思考力を育成する場面を作り、実践を進めていった。「総合的な学習の時間」では、整理・分析段階を中心に、収集した情報を再構成してその関係や傾向を見出すことを思考力ととらえることができる。そして、思考力は階層的にとらえて、思考を深めていくことが理想とされる。昨年度は思考の分析の取組の初年度ということもあり、ベーシックな思考を中心に思

考のスキルの類型化を図った。例えば、収集した情報を比較して思考する、分類して思考する、関連付けて思考する、多角的に思考する、序列化して思考する、というように生徒の思考を授業内容ごとに分析した。学習活動の場面は班活動が中心であり、集団での議論が少なかった。そこで本年度は班・個人で思考した考えを、クラス集団で練り上げることで再構成して思考を深めることを高次の思考としてとらえ、思考の段階をあげていくことに取り組んだ。以下の表（図4）が本校が目指す「総合的な学習の時間」での思考力の概要である。

（図4）



### ○授業のねらいにより適した思考ツールの開発・活用

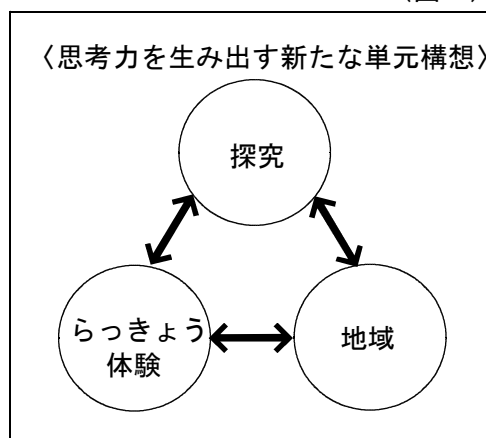
思考という言葉は漠然とした大きな言葉であり、単に「考えなさい」と指示を出しても、そこに手立てがない限りは思考力を育成することは難しい。教師側のねらいを達成させるための生徒への意図的な働きかけが必要である。そのために思考を深めるための思考ツールについては、昨年度活用した思考ツールだけでなく、集団での思考の育成も考慮していくために、生徒の実態に応じた議論しやすい新たな思考ツールの開発・活用を行った。

また、思考力についての評価をより具体的にできるようにするために「思考力の段階表」を作成した。（巻末資料②参照）つまり、思考力を深める学習場面を設定して、その授業ごとに「思考力の段階表」を活用して、生徒の具体的な姿を通して思考力を評価していくことにした。A、B、Cとは評価規準のことであり、Bが全員に達成させたい具体的な姿であり、本時のねらいとなるものである。CはBに達することができない姿、AはBより上の段階を達成している姿である。Bに達することができない生徒への授業での具体的な手立てとしては、必ずティーム・ティーチングとして複数の教員が授業につき、T2の教員が個別に指導にあたっていく指導形態の工夫を行った。「総合的な学習の時間」での思考力の育成をねらいとした具体的な授業実践は巻末資料③～⑦を参照されたい。

### ○3年間の探究活動の流れを意識した単元づくり

本校の今までの「総合的な学習の時間」は、1学年でらっきょう植え付け体験、2学年でらっきょう収穫加工体験、職場体験学習、3学年で修学旅行らっきょうPR活動を中心単元として位置付けており、全国的な特産品であるらっきょうに関する体験学習が中心であった。そのため生徒が自ら課題意識を持って、問題解決をしていく学習活動が少なく、単元を通してどのような生徒に育てていきたいのかというねらいも定めにくいところがあった。そこで地域を題材とした探究学習と本校の特色ある取組である

（図5）



らっきょう体験学習を融合させながら、思考力を育成するためにどのような学習活動を仕組むのかを考慮に入れて、新しい単元構成を行った。（図5）例えば、1学年単元の「地

域・らっきょう探究学習」は、従来は体験だけで終わっていたものをそこに探究の要素を加えた新たな単元である。そして探究活動の流れを意識して、3年間の系統的な「総合的な学習の時間」の全体計画の確立を目指した。(図6)

「総合的な学習の時間」における3年間の探究的な学習活動の流れ (図6)

単元 および 実施 学年	地域・らっきょう探究学習	職場体験学習	地域・らっきょう発信学習 (地域情報誌づくり)	東京修学旅行での福部PR活動 (地域情報誌とらっきょうの配布)	地域情報誌づくりのまとめ (地域への活動報告)	福部の未来への提言 (CMづくり)
	1学年前後期	2学年前期	2学年前後期	2学年後期 3学年前期	3学年前期	3学年後期
課題設定	福部の良さを知らするために、福部の特産物のらっきょうについて調べよう。	地域の職場で働くことの意義と将来の生き方を関連付けて考え、目標を持って職場体験にのぞもう。	県外の方を含め、たくさんの人に福部の良さを発信するために、魅力的な地域情報誌を作ろう。	修学旅行先の東京で地域情報誌とらっきょうを活用して福部のPR活動を考えよう。	「地域情報誌づくり」と「東京での福部PR活動」の成果についてまとめよう。	「総合的な学習の時間」で学んだことをもとに福部の未来を創造する提言をまとめよう。
情報の収集	・らっきょう加工場での勤労体験やらっきょう植え付け体験から地域のらっきょうを現地で学ぶ。 ・地域のらっきょうに関わる人への聞き取りをしたり、調べ学習を行う。	・職場の方にインタビューすることで働くことについての価値観や仕事に対する思いを聞き取る。 ・職業に就いている周りの人に対する質問をする。	・グループごとにテーマを決めて、現地での取材活動を行う。 ・県外の観光客にアンケートを実施して誌面づくりに役立てる。 ・らっきょう収穫加工の体験をすることで地域のらっきょうを現地で学ぶ。	・前年の3年の「総合的な学習の時間」の成果発表会を参考にする。 ・地域情報誌の内容とらっきょうについてさらに調べる。 ・東京に関する調べ学習を行う。	・手紙、メールなどの東京の方の実際の反応も参考にする。 ・自己評価シートをもとに取組を振り返る。 ・地域情報誌の内容については他者評価も取り入れる。	・福部の未来についてイメージを広げ、地域と将来の自分との関わりについて考える。 ・福部町の行政の良い点や問題点を調べる。
整理・分析	自分の体験、地域の人へ聞き取りしたこと、調べ学習の情報を整理・分析することでらっきょうに関する知識を深める。	自分の体験、職場へインタビューしたこと、周囲への聞き取りを整理・分析することで、勤労観や将来への職業観を深める。	取材活動やアンケート結果の情報を整理・分析することで誌面内容を考える。	東京で伝えたい地域情報誌の内容とらっきょうのPRの視点を整理・分析し、どのような言葉と接し方がよいかを考える。	自分の体験、過去の自己評価、他者評価などを整理・分析することで、「総合的な学習の時間」で身についた力を分析する。	3年間の「総合的な学習の時間」で学んだことを整理・分析して、福部の未来について考える。
まとめ・発表	発表方法や発表内容も考えながら、グループごとにレポートにまとめ、学年で発表会を行う。	職場体験で印象に残ったことを選び、目標が達成できたかを吟味しながら個人で新聞形式にまとめる。	発表方法や発表内容も考えながら、グループごとにプレゼンにまとめ、校内文化祭で地域の方、保護者の方も対象にしてその内容の発表会を行う。	取組の様子と修学旅行当日の様子については、自己評価シートにまとめる。	取材でお世話になった施設やお店に直接うかがい、お礼と福部PR活動の報告を行う。	動画(CMまたは番組)にまとめて、地域に配布したり、ホームページも活用することで社会貢献を行う。

### ○他領域（保健教育）と「総合的な学習の時間」との横断的・総合的な単元構成

本年度、第49回鳥取市学校保健研究大会が本校で開催されることになった。「総合的な学習の時間」で思考活動を充実させていくためには、他領域との関連を見出し、探究活動の幅を広げていくことが有効である。そこで地域の特産物である「らっきょう」が健康食品であることに視点をあてて、2学年単元「地域・らっきょう発信学習」では、自己の生活習慣を振り返り、健康増進を「らっきょう」との関わりから探究する保健教育の内容を取り入れた横断的・総合的な単元計画を作成した。そのことで健康的な生活を含めた自己の生き方を福部との関わりから考えていく生徒が増えていくことを期待した。

2学年単元「地域・らっきょう発信学習」の単元目標に下線部の目標を加えて、実践を進めた。(巻末資料⑤⑥参照)

#### 〈単元目標〉

- ・地域を題材とした地域情報誌の制作に向けて課題を設定し、その課題に応じた解決方法と表現方法を探究的に模索する過程で、思考力・判断力・表現力を養う。

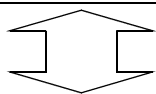
- ・郷土を愛し誇る心を育て、郷土の一員としての自覚を持ち、その良さと魅力を発信・伝達しようとする態度を育てるとともに、地域の将来と課題に目を向けることで自己の生き方を考える。
- ・健康について関心を持ち、地域の特産物であるらっきょうが健康食品であることを探究し、健康増進についてらっきょうと関連させて生活をしていく生き方を考える。
- ・情報収集のための取材活動等において地域の人々と接したり、友達との協同的な学び合いの中でルールやマナーなど社会性やコミュニケーション能力を身に付ける。

## ○総合的な学習の時間と各教科の相互作用

「総合的な学習の時間」で思考ツールの活用や言語活動の充実・工夫を考えて、探究的な学習を高めて思考力を育成していくとともに、各教科でも思考ツールの活用や言語活動の充実・工夫を行い、それぞれの教科で求められる思考力を育成することも目指した。「総合的な学習の時間」と各教科の取組を同じ視点で実践を進めていくことが、お互いに生かされ相互作用を生むものと考え。本校では「総合的な学習の時間」での育てたい力を学習方法に関する事、自分自身に関する事、他者や社会との関わりに着目して、5つの力に定義しているが、思考力についての定義は、教科で求められる思考との整合性を考慮に入れている。

教科の取組については、教科における思考力を教科ごとの言葉で定義はしていない。教科ごとに新しい言葉を創作すると、その言葉によって研究の方向性が定まりにくい可能性があるからである。あくまで教科の評価の観点を育成することに視点を置き、言語活動の工夫のさらなる充実を行った。具体的に昨年度は文部科学省の言語力育成に関する整理用一覧表（巻末資料⑧参照）を活用して、その中の言語活動の解釈・説明に関する実践を進めた。その言語活動の解釈・説明に関する内容が本校の「総合的な学習の時間」の思考力の定義に最も近いものであり、教科で求められる思考力の育成とともに、「総合的な学習の時間」の取組にも生かしていけるものと考えたからである。本年度は、「総合的な学習の時間」において集団での思考の育成も目指しているために、言語活動の討論・協同に関する実践も加えて授業づくりを行うことにした。

「総合的な学習の時間」における思考力の育成



総合的な学習の時間と各教科の相互作用

各教科では言語活動の解釈・説明（概念・法則・意図などを解釈し、証明したり活用したりする）の項目と討論・協同（互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる）に関する実践を行う。解釈・説明と討論・協同の項目については一覧表の言語活動（①～⑩）のうち、どれかを意図した言語活動を授業に取り入れて思考力を高める。

例えば各教科の指導案では、上記の言語活動の分類①～⑩の内容を授業の中に意図的に仕組み、集団の思考でまとめていく授業形態を中心として取り組んだ。

### ☆数学2学年単元 「一次関数」

（解釈・説明に関する言語活動③：文章や図表、数式などから様々な情報を的確に読み取り、これらを用いて説明する活動）

### ☆ 本時のねらい

具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べる活動を通

して、その関係を一次関数と見なし、問題解決に利用することができる。

【数学的な見方・考え方】

教科で求められる思考力

☆授業展開

- ①陸上男子100mの世界記録は10年後、20年後にはどれくらいまで伸びるのかを予想・検証をする。  
→表や式やグラフなどの情報を活用することで問題解決を行う。(言語活動の工夫)
- ②自分の解決方法をなぜその方法で解決できるのか班員に説明する。  
→班と全体の場で自分の考えを説明する。(言語活動の工夫)
- ③クラス全体で予想を検証しながら、どの解法が妥当か議論を行う。  
(言語活動の工夫、集団での思考)

☆理科2学年単元「動物のなかまと生物の進化」

(解釈・説明に関する言語活動①：事象を比較する，分類する，関連付けるなどにより，事象間の関係を説明する活動)

☆本時のねらい

脊椎動物の体の特徴や生活の様子について意見を出し合うことを通して，脊椎動物の体のつくりや増え方などの特徴が，動物の生活のしかたと関係にあることを気づくことができる。

【科学的な思考・表現】

教科で求められる思考力

☆授業展開

- ①動物の絵を見て，その動物の特徴について知っていることを考える。
- ②動物の特徴を班でホワイトボードを使ってまとめる。(言語活動の工夫)
- ③クラス全体で議論しながら動物の特徴をまとめる。(言語活動の工夫，集団での思考)

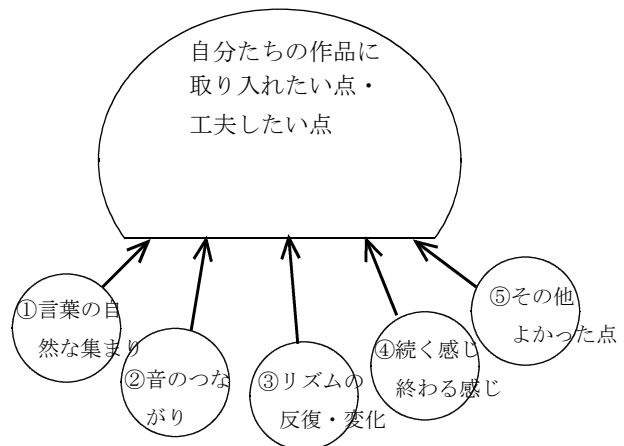
また，教科の学習でも，思考ツールを開発・活用することで言語活動の工夫を行っている。社会科の3学年公民学習ではマトリックス表を活用して，自分ができる政治参加の方法について集団での議論を行いながら，思考を深めることができた。3学年音楽科ではクラゲチャートを活用してリコーダーの演奏についてさらなる工夫を考え，思考を深めることができた。生徒はこのような「総合的な学習の時間」の手法に慣れており，手際良く活動を行い，思考を操作することができた。つまり「総合的な学習の時間」でいろいろな思考ツールを介しての学び方やものの考え方を学んでいるために，集団での思考・練り上げも協同的に行い，教科で求められる思考力を育成する手立てとすることができた。

〈社会科：マトリックス表〉

	家族全員で福部町で生活する	別々に分かれて生活する	家族全員で東京で生活する
◇良い点			
◆心配なこと			
◆問題点			
◇解決する方法			

ある家族の問題を3つの決断に分けて考え，この思考ツールをもとにしてクラス集団で整理・分析していく。

〈音楽科：クラゲチャート〉



クラス集団で整理・分析した思考ツールをもとにして，班ごとに奏法を再構成していく。

## 【研究成果とその意義等】

### (1) 研究成果と課題

#### 〈成果〉

- ・全教科全領域で、生徒が思考を深める場面の手段として思考ツールの活用を試みることで、思考を可視化・操作化することができ、互いに学び合う協同的な授業を行うことができた。その結果、生徒の学びの質を高めることができた。
- ・本年度は班・個人の思考（ベーシック）から集団へと思考（高次）の段階を上げ、クラス集団で一つの思考ツールを主たる思考活動として取り組んだ。クラスメート全員の意見を情報として整理・分析することに難しさがあったが、生徒の実態に合わせた思考ツールの開発によって集団の思考の場面では、多くの生徒が他者の考えと比較検討しながら自分の考えの再構成を図ることができていた。「思考力の段階表」を活用しての生徒の自己評価においても、生徒の思考が深まっていることを見出すことができた。
- ・思考の段階を上げることで、単元の思考の産物である成果物（地域情報誌、福部の未来を伝えるCMなど）も昨年よりも内容が充実してきており、生徒の単元を通しての成長した姿を見ることができる。例えば、「どのような力が身に付いたのか」「どんなことができるようになったのか」という観点で自己評価や振り返りができる生徒が増えており、「総合的な学習の時間」における生徒の前向きな変容を見取ることができた。従来の総合的な学習の時間の単元ではうまく自己評価できなかった生徒が、単元終了後に以下のような記述ができるようになった。

どんなことも、今まではただこなすだけだったけど、一つひねりを入れて工夫をすることでどうしたら良くなるかを考えるようになった。

みんなと協力して作業することができ、思考ツールでの話合いで自分の考えていることが言えるようになった。
- ・KJ法、ウェビングマップ、座標軸の入ったワークシート、レーダーチャートなど多くの思考ツールを活用してきたが、「総合的な学習の時間」で集団の議論を行う際の思考ツールとしてはピラミッドチャート、ピラミッドランキングが最も有効であった。焦点化、序列化に視点をあて思考活動を行うと議論が活性化しやすく、クラスで一つの思考ツールを作っていく達成感も味わうことができた。授業以外の日常の場面でも、ピラミッドチャートを活用して問題解決をしていく場面も見られた。
- ・各学年で「総合的な学習の時間」に関するアンケートを実施した。概ね各項目で前向きな傾向であったが、特に以下の項目で良好な結果を得られた。

「総合的な学習の時間」で友達と一緒に問題解決したり、協力することができたか。  
(1学年は83%が肯定的、2学年は94%が肯定的、3学年は100%が肯定的)

「総合的な学習の時間」で難しいことに会った時もしっかりと考えることができたか。  
(1学年は92%が肯定的、2学年は94%が肯定的、3学年は100%が肯定的)

「総合的な学習の時間」で学んだことは、他教科の授業で役立っていると思いますか。  
(1学年は88%が肯定的、2学年は87%が肯定的、3学年は96%が肯定的)

「総合的な学習の時間」で求められる探究・協同の観点での学習が浸透してきたことがわかる。また他教科の学習活動にも応用していく姿勢が定着してきたこともわかる。



- ・平成25年度全国学力・学習状況調査において、質問紙調査の「総合的な学習の時間」に関する項目でも良好な結果が得られている。

「総合的な学習の時間」では自分で課題を立てて情報を集めて整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(→全国平均より42ポイント上)
--

「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思いますか。(→全国平均より29ポイント上)
---

また、国語・数学の知識の活用・応用度をみるB問題において、国語Bは全国平均より5.6ポイント、数学Bは5.8ポイント上回っている。入学当初の学力と比較すると、全般的に向上しており、「総合的な学習の時間」の成果の一つといえる。

### 〈課題〉

- ・集団での思考の場면을授業で仕組む場合、概ねすべての生徒がしっかり思考していたが、議論に参加できない生徒については指導と評価の一体化が難しいことがある。自己評価・振り返りの工夫やT・T教員の支援の工夫が必要である。
- ・集団での思考の際に、個々の生徒の思考と思考をつなげていく場面を多く作ったり、生徒の思考の価値を見極めて全体でゆさぶる場面を作ったりするなど教師のコーディネーターとしての指導力の向上が求められる。
- ・「総合的な学習の時間」で育成された力を各教科、各領域に横断的につなげていく事例を多く考える。そして、その育成された力がどのように各教科、各領域で生かされたのかを授業を通して検証していく実践を増やしていく必要がある。
- ・小中連携の視点から、「らっきょう」の題材を扱う年間指導計画のさらなる工夫を行い、中学校で探究してみたいと思える導入の工夫をすることが必要である。また思考力と小学校の「総合的な学習の時間」で身に付ける力とのつながりをより吟味することで、中学校での「総合的な学習の時間」の質がさらに高められると考える。

### (2) 研究成果の意義等

思考という言葉は漠然とした大きな言葉であり、思考を分析、比較、分類、関連付け、序列化などのように具体化し、そのための手立てを用意することが重要である。その分析に基づいた学習活動や思考ツールを各単元で準備して実践することが、思考力の育成に極めて有効であるといえる。

### (3) 指定期間終了後の取組

指定期間終了後も各教科等において思考力の育成を研究の柱としていきたい。「総合的な学習の時間」では、昨年度見直しをした3年間の系統的な総合的な学習の時間の全体計画に基づいて、生徒の実態に応じた柔軟な授業づくり・単元づくりを行う。また、各教科でも言語を媒体として「考える」ことを基軸とした授業を継続して行っていく、総合的な学習の時間との関連を図り、思考力・判断力・表現力をさらに高めることを目指したい。